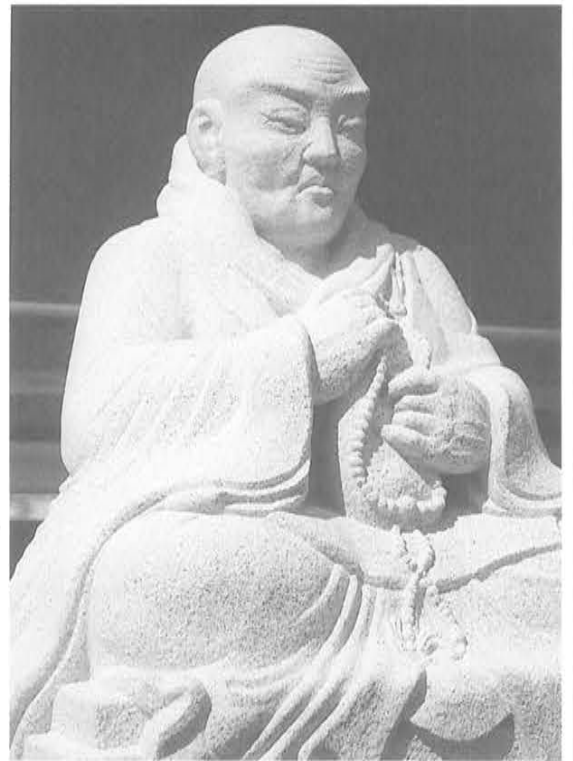


寺院などからの依頼で各種仏像を制作納入

愛知県岡崎市 石彫家・長岡和慶師



御真影の親鸞聖人座像（永照寺）

親鸞聖人座像を建立

岡崎市・永照寺本堂前に

愛知県岡崎市内の篤信家Y氏が昨年8月に石彫家・長岡和慶師のアトリエに来訪。浄土真宗本願寺派の永照寺（大山西雄住職）に何か像を建てたいと。同氏は「かつて幼い頃に、先代住職からお経を教わり、誉められたことがある。よき思い出となり、恩返しとして石像を建てたい」と制作依頼があった。

その後、住職と長岡和慶師、篤信家Y氏の三者協議の結果、同宗の宗祖である親鸞の座像に決まった。

原石は、豊田市産の花沢石（株鈴木石材産出）を使用。像容は頭部が円頂で額や目尻にはしわを刻む。特徴はそり上がる眉毛。また、目元や口元のしわを太くし、首はがっちりさせた。両手に数珠を持ち、意志の強さを前面に出した表情に仕上げた。石像は、宗祖像ということもあって本堂

派な出来。自然と手を合わせたくなる」などと喜んだ。

長岡師は「今まで以上に寺に親近感を持つてもらいたい。浄土真宗や親鸞聖人のことを知ってもらえるように話している。」

ぽっくり童子十一面観音立像

神奈川県・浄土宗三樹院に建立

神奈川県三浦市の浄土宗三樹院の今井正純住職から昨年5月、「ぽっくり童子観音像」の制作依頼があった。長岡師は、三樹院の本尊が十一面観音であることから、今井住職の理解のもと、愛くるしい子供の姿でぽっくり下駄を履いた十一面観音



創作されたぽっくり童子十一面観音菩薩像（三樹院）

像の制作を決めた。原石は花沢石（株鈴木石材産出）。像容は本体及び頭部に十一の顔を持ち、長い髪を高く結い上げた髪型。左手に蓮華を挿した水瓶を持ち、右手は心から不安を取り除く意味を有する施無畏印を結ぶ。両肩にはシヨールのような带状の天衣を掛け、ぽっくりの両外側には願いをかなえろと言われる「宝珠」を彫った。

また、頭の後に頭光を表わす「宝珠形光背」も加えて彫刻。同像を載せる上蓮華を八重蓮華の姿形型で仕上げ、昨年7月完成。そして本年3月開眼法要が営まれた。

報恩地藏菩薩半跏座像

東京・浄土宗祐天寺に建立

東京都目黒区の浄土宗祐天寺（第二十三世・巖谷勝正住職）に、このほど長岡和慶師制作の「報恩地藏菩薩半跏座像」が建立された。同寺を開山した江戸時代中期の高僧・祐天上人（二六三七〜一七一八年）の三百年御遠忌記念として、巖谷住職から石彫制作の依頼が長岡和慶師の

元にあつたのは六年前の秋。御遠忌事業が進行中の際で、日本石仏協会坂口和子会長が主催する石仏公開講座に参加した同寺の研究員が和慶師の著書「長岡和慶の世界」（株インテックス）を購入し、それを巖谷住職に見せたところ「この人につくってもらおう」と決断されたという。

る上蓮華を八重蓮華の姿形型で仕上げ、昨年7月完成。そして本年3月開眼法要が営まれた。

観音像付近には「健康で長生きし、万が一病気になるたとしても長思はず、人の世話にならず安楽往生を遂げたい」という願いをかなえる観音様です。ぽっくり下駄を愛らしく履き、老若男女誰からも親しまれる姿をしている」などと書かれた案内看板も設置されたという。



三百年御遠忌記念として建立した報恩地藏菩薩半跏座像（祐天寺）

にある木彫の地藏菩薩像を原形とし、石像を制作する上で最小限の変更と制作を加えた。

制作に取り掛かる前に巖谷住職が長岡師のアトリエで石供養を行なった。本体と上蓮華、反花台を一つ石で制作しているため、木彫仏を石仏で再現する際に幾つかの問題点があつたが、巖谷住職と相談した上で進めていった。背面には「南無

親子地藏菩薩像を建立

神奈川県三浦市の三樹院に

前出の「ぽっくり童子十一面観音像」を今年三月建立した神奈川県三浦市の浄土宗三樹院の今井正純住職より、5月初旬に便りがあり「小学生の通学路沿いに子供たちの登下校を優しく見守る親子地藏を童地藏の姿に変身して制作してもらい、境内に面した通学路に建設したい」とあつた。

同寺のご本尊は十一面観音であるが、本堂には昔から安産と子育てに利益があると言われる延命

阿弥陀仏」の名号も彫られた。

同寺に石像を納入したのは平成二十五年一月。四年以上保管され、台座が完成した今年三月に長岡師立ち会いのもと、据え付けがあつた。開眼供養は三百年御遠忌法要の二日目に当たる五月十四日に行なわれた。なお、台座の制作・施工は東京の（株彩石が行なった。

偶然にも、仕事の合間に八割くらいまで制作していた展示用の親子地藏尊（花沢石で制作）がアトリエ内にあり、今井住職の求めていた像に一致し、了解を得て仕上げた。像容は親子三人が変身した童地藏の姿で、父と

母と子の構成。円相光背と本体、上蓮華が一つ石向かって右側の母像は正座した僧形で、両手に数珠を持ち合掌している。

左側は直立の父像で、不安や恐れを取り除く「施無畏印」と宝珠を左右の手に持つ。子は父の右足前に座り、左手に教科書（梵篋）を持ち、右手を挙げてあいさつをしている姿になっている。

今井住職からは「地藏菩薩の慈悲に満ちた優しい顔に安らぎを感じた」と礼状が届いており、現在は由緒板も設置されている。長岡和慶師は「今のニーズを見ると親子関係の崩れを感じる。親が子を、子が親を殺してしまうような末法の世の中で、救済に努める親子地藏を創作した」と話している。



長岡型創作台座に載る親子地藏菩薩像（三樹院）

◆長岡和慶
愛知県岡崎市東牧内町字堤外60-1
TEL & FAX 0564-13212
335
E-mail: wakai-nagaoaka@kkt.digbook.ne.jp